



現地集合！ ルートは自由 チームごとに作って楽しむ 「エクストリーム社員旅行」

1991年設立、最先端（Acro）技術を探求（Quest）し続けるIT企業、アクロクエストテクノロジー株式会社。働きがいのある会社ランキング1位獲得企業でもある同社では、2024年10月「エクストリーム社員旅行」を実施。現地まではチーム別に個性的な旅を楽しみ、懇親会でその旅のようすをプレゼンバトル。大いに盛り上がるという。

取材・文／石田 ゆう子

PROFILE



アクロクエスト
テクノロジー株式会社
組織価値経営部
シニアマネージャー
鈴木 達夫さん

すずき・たつお 1998年入社。エンジニア兼採用担当を経て、人事、総務、経理などを統括する現職。趣味が高じて温泉ソムリエに。「休みとなれば次に行くところを探しています。社員旅行の温泉地探しも私の役割。楽しんでいます」。



アクロクエスト
テクノロジー株式会社
顧客価値創造部
広報
白井 智子さん

しろい・さとこ 2013年入社。開発エンジニアから技術営業などを経験後、広報兼任に。多趣味で今はカメラに夢中。コンテストにも挑戦。「上高地に行き、撮りたかった風景に出合えていつもとは違う体験ができたのが楽しかったです」。

働きがいのある会社の 普通とは違う社員旅行

創業時から国のインフラにかかわるシステムや、モニタリングなどの基幹システムを多く手掛けてきたアクロクエストテクノロジー株式会社。DXや生成AIが世の潮流となってきた今、これまでの技術に最先端技術を取り入れながらビジネス領域を拡大している。

一方、働きがいのある会社ランキングの受賞を機に、外部向け組織コンサルティングも開始。「外部の講演に登壇もしますし、当社への視察訪問も歓迎しています。さらに経営者向けに『組織いきいき実践勉強会』なども開催しています」と、組織価値経営部 シニアマネージャーの鈴木達夫さんは話す。

働きがいのある会社づくりの施策は多々あるが、その一つが「エクストリーム社員旅行」。初回の実施は2019

年4月、コロナ禍を経て2024年10月に復活した。これが一般的な社員旅行とはかなり趣が異なっている。

決まっているのはゴール地点と日程だけ。社員は3～5人のチームに分かれ、そのゴール地点に向かって自由なルートで旅を楽しみながら現地で集合する。「社員旅行は毎年行っていたのですが、そろそろ普通の旅行じゃおもしろくないよね、と。当時、はやっていたエクストリーム出社から発想を得て生まれたアイデアです」（鈴木さん）。

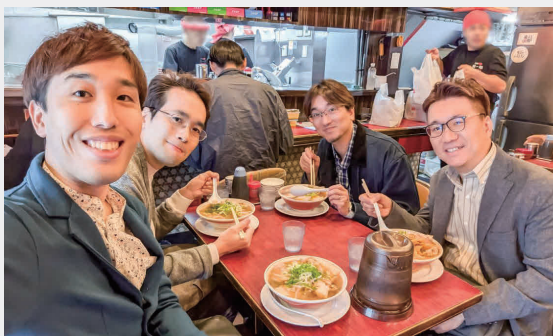
経由地は海外もOK 弾丸でグアムにも

「最初に提案が上がってきたのは2019年2月のMAの場でした。MAとは毎月行っている全体会議。新人から社長まで全社員が一堂に会して会社の方針や制度を決めていく会議のことで

す」と、顧客価値創造部 広報の白井智子さん。そこにエクストリーム社員旅行の案が上がってきた。楽しそうだと全員が大賛成。「その場ですぐ、『自分は〇〇に行くから一緒に行きたい人ー』といった感じでチームが組まれていきました。場所選びが好きな人もいれば、計画を立てるのが得意な人もいます。うまいことチームができるんですよ。しかも毎回、一組は海外を経由させます。初回は台湾、今回はグアムのチームがありました」（白井さん）。

2024年のゴール地点は愛媛県の道後温泉。集合までに最大2泊、集合して1泊。計3泊4日の旅行だ。社員が選んだ経由地には、グアムのほか、姫路、広島、神戸、周防大島、淡路島、山口などがあった。行きたい場所に行くだけでなく、フェリーに乗りたい、サイクリングがしたいなど、移動手段もルート選びのテーマになる。ちなみ

旅行の参加は社員の自由意志だが、家庭の都合などがある人以外ほぼ全員が参加。純粋に楽しいからだという



に交通費の半額は1人5万円を上限に会社が補助。残りは社員自身の積み立てだ。

プレゼンバトルで 他チームの旅も共有

運営側としては、まずゴール地点を設定することから始まる。早めに決めれば交通手段の予約なども安いうちに取れるとあって、2024年5月にはゴール地点を発表した。「あとはチーム分け用のExcelを用意し、ここに行き先を書き込んでねといった形にしました」（鈴木さん）。

そこに行きたい場所がある人が書き込んで、同意した人が乗かってチームが作られていく。たとえば、酒蔵を回る、国内ながら海外風の場所に行く、麺好き同士で3食ラーメンを楽しむ、というようにさまざまなルートが誕生した。

旅行中は同社オリジナルの位置情報共有地図アプリを使って旅のようすをシェア。違うチームの状況もリアルタイムでわかるのがおもしろい。そしてゴールで待つのがプレゼンバトル。懇

親会で各チームが2分間ずつ、どういう旅を楽しんだかをプレゼンする。資料は旅行中に作成。最後は「どのチームがいちばんおもしろい旅をしたか」を投票で決める。どのルートの旅も一緒に楽しんだ気持ちになれるのがまたいい。今回の1位は2日間で瀬戸内海の島を20島以上巡ったチーム。橋を活用したり綿密にフェリーの時間を調べたり。細かく立てた計画通りに実行したそう。

社員用の時間管理ノートが 高評価を集めて商品化

社員の声としては「リフレッシュできた」「想像以上におもしろかった」などの感想に加えて、リモートワークの社員と久しぶりに会えたこと、またこうして旅行できることを喜ぶ人もいた。「コロナ禍で社員旅行は休止を余儀なくされましたが、こもりっ放しもつらい、との声も上がっていました。そうした中、MAで提案があって、お互い顔を見知った人たちだけで移動できるようキャンピングカーをレンタルし、キャンプ場に出掛けたりもしてい

ました」（白井さん）。

そのほかにもいろいろな施策を推し進めている同社。中でも、ITながら手書きによる時間管理ノート「アクロノート」が話題を呼んでいる。使い方としては毎朝、その日の自分の予定を書き出し、仕事を進めながら実績を書いていく。これを見ると予定よりも時間がかかってしまった部分がわかる。また上司とはノートをはさんで朝夕に対話をする。そこで「ここで時間がかかった理由はなんだろう」などとコミュニケーションが取れる。「もともとは毎日、A4 1枚のフォーマットを印刷して使っていたのですが、無駄を減らそうと1か月分をとじることに。それが、『これはいいね』と外部の方からもいわれるようになり、今は販売もしています」（鈴木さん）。

ほかの施策にしても、うまくいったことをそのままグッドプラクティスとして取り入れることが多いそう。「逆に課題は放置せずMAですぐ解決します。働きがいを持てるよう、こういう制度があったらいいね、が決まっていく。私の中ではこのMAが当社最大の福利厚生だと思っています」（白井さん）。🌀

アクロクエストテクノロジー
株式会社

本社：神奈川県横浜市港北区新横浜3-17-2
友泉新横浜ビル5F
設立：1991年3月
代表者：代表取締役 新免 流

資本金：4100万円
従業員数：75人（2024年12月現在）
<https://www.acroquest.co.jp>